



情報端末で録画しながら生徒が自身の考えを発表し合った公開授業。25日、小浜市の若狭高

生徒主体授業 教員学ぶ

若狭高で実践 県内外から40人

生徒が主体となり論理的な学習を進める「アクティブ・ラーニング」を実践した公開授業が25日、小浜市の若狭高で行われた。県内外の教員ら約40人が見学し、対話を通じて思考力や判断力、表現力を養う「参加型授業」を学んだ。

若狭高は県内で唯一、文部科学省によるアクティブ・ラーニングの研究指定校となっており、効果的な学習・指導方法の理解を広めようと公開授業を行った。

この日は文理探求科1年2組で、渡邊久暢教諭(49)による国語の授業が公開された。パキスタンの少女が反政府武装勢力に銃撃された実例を基に、女性の権利を制限する差別について生徒約30人が意見を交わした。渡邊教諭は「対話や教育によって時間をかけて改善すべき▽経済制裁などでやめさせるべき▽他国に口出しする前に自国の女性の人権擁護活動を行うべき」など四つの主張を事前に提示。

生徒たちはいずれかの立場に立ち、グループ内で持論を発表した。さらに妥当性を示す具体例や予想される反論への再反論など論点を整理した後、2人1組で発表し合いながら情報端末で録画。見学者も生徒に質問するなどして論点整理を深めた。

授業では黒板はほとんど使わず、録画したデータは生徒自身の論理構成の検証に役立てるという。見学した金沢大大学院の松田淑子教授は「ど

う教えるかではなく、生徒がどう学ぶかに軸足を置いた授業。教員にとっても大きな転換になる」と感じしていた。

(前田卓)